

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4290201120		
法人名	有限会社RAIMU		
事業所名	グループホームほほえみ	ユニット名	はな
所在地	長崎県佐世保市萩坂町1750-1		
自己評価作成日	2023年 12月 3日	評価結果市町村受理日	2024年 3月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_bref_topieyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 2月 1日	評価確定日	2024年 2月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者それぞれのペースを大切にしながら支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホームほほえみ」は2014年から「有限会社RAIMU」が運営している。ハウステンボスの花火が見える場所にあり、地域に根ざしたホーム運営を大切にこられた。2022年度は1つのユニットの管理者が変更になり、両ユニットの管理者同士で更なる情報交換や協力体制を作りながらコロナ禍のケアに努めてこられた。法人代表（社長）等も常にホームの実状に寄り添い、課題が発生した際も職員の考えや思いを引き出し、より良い解決策となるよう導いて下さり、介護の中での「疲弊感」「余裕の無さ」を少しでも軽減できる取組みを検討している。職員の半分以上が人生経験豊富な方々であり、70代の職員の方々が研修受講や資格取得に向けてモチベーション高く過ごされており、職員の方々が「仕事にやりがいを感じます」「仕事が楽しいです」などの言葉が聞かれていた。入居者と家族の方々の要望を叶える取り組みも継続し、プランターでの野菜作りや収穫、包丁を使っての下ごしらえなどをして下さり、感染対策を行いながら自宅への外泊、外食、お孫さんの結婚式の参列等も叶えることができた。ご本人が最期まで安心、安楽に過ごせるよう、徒歩圏内にある協力医療機関との連携も継続し、医師、訪問看護師、理学療法士等と協力して、入居者の方々の健康管理が行われている。終末期は家族もホームに宿泊され、家族の方々が最期まで悔いなく一緒に過ごせるよう配慮している。今後も引き続き、その人らしさを大切に、生きがいを持って生活が送れるよう、アセスメントの改善、家族の方々との話し合いを続けていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をひまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>様々な場面で理念に基づいたケアの検討を行い実践に移している。</p>	<p>「らしく いきよう むげんに」という理念を大切にされている。「その人らしさを大切に、生きがいを持って生活が送れるよう、継続して支援を行います」という具体的な実践内容も作られている。新規入居者の受け入れ後、職員それぞれが「その方のことを知ろう」と関わりを多く持ち、日々のケアで発語が見られたり、笑顔が増えた方もおられる。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣への散歩等行い住民の方と挨拶を交わしたり顔を合わせる機会が持てている。</p>	<p>ハウステンボスの花火が見える場所があり、結束が強い地域である。新興住宅の増加で小学生も増え、新たな地域になってきている。2023年度は夏祭りや酒蔵の蔵開き等も再開し、夏祭りの日はホームから提灯などの雰囲気を楽しまれた。協力医療機関や調剤薬局、駐在所などの協力体制もあり、長崎短大の実習生や高校生の介護体験の受け入れもできている。散歩の時に地域の方に挨拶しており、今後も園児との交流を検討していく予定である。コロナ前は地区運動会、敬老会等に参加していた。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>近隣の病院、駐在所、薬局の方と支援方法の相談や情報交換を双方向で行えている。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で頂いた意見に基づいて見直しを行い、サービスの向上に努めている。</p>	<p>対面での運営推進会議を再開し、運営状況や行事等を共有している。民生委員や派出所の方から地域情報を教えて頂き、認知症ケア等の情報交換の場になっており、隣接する医院の事務長や薬剤師の方は感染状況や対策等を教えて下さり、家族の方と介護状況の共有もできている。外部評価（自己評価）も報告し、家族アンケートの回答率が高いことに対し、「職員が家族との連絡を密にしているからではないか」など、お褒めの意見を頂いた。地域の方から「カフェ」への参加や講師としてのお誘いを受けており、今後も出前講座等を行う予定である。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>代表が市町村担当者ととの連絡、連携を密に行っている。管理者も市の担当者と顔なじみの関係を作り協力関係を築けるよう取り組む。</p>	<p>介護保険制度や後見人制度、生活保護等の不明点などを管理者が市に報告相談している。市の方も親身に対応して下さい、必要時は社協などを紹介して下さい。コロナのクラスターが発生した時は市役所の職員の方々が衛生用品を届けて下さり、「大変でしょうけど頑張って下さい」と声をかけて下さった。社長は県の役職を務めており、認知症サポーターのキャラバンメイトの育成講師、認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議等でアドバイスしている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>不適切ケアの根絶に向けて身体拘束防止委員を中心に全職員で学びを深める。</p>	<p>法人内とホーム内で身体拘束防止委員会、虐待防止委員会（年4回）を開催し、不適切ケアの事例検討会で「スピーチロックや不適切ケアなど身体拘束や虐待につながるケア」「職員のストレスケア」等の勉強を続けている。職員アンケート（毎年）もを行い、日々のケアの振り返りを行っている。今後も事案が発生しないよう、法人内の体制を強化していく予定である。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内に虐待防止委員会を設置し、定例会議、勉強会の開催を行い虐待防止に向けた取り組みを行っている。</p>		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を開催し、学びを深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の面談を行いご本人やご家族の疑問点・不安の事をお尋ねし、ご理解・納得をいただいた上で入居の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者だけでなく、職員もご家族が面会に来られた際にお話を聞き、意見や要望を言いやすい環境を作っていく。	家族との情報交換を大切にしている。広報誌（ほほえみ通信）と手紙、面会時に日々の暮らしぶりや健康面を報告し、要望を伺っており、「自宅への外泊」「家族と外出して食事」「結婚式の参列」などの要望を叶えることができた。コロナ禍は面会方法の検討を続けてこられ、感染状況に応じて玄関での面会や窓越しの面会、電話での情報交換も行われていたが、コロナがら類になり、居室での面会が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表が頻りに施設に来ており職員とも話をする機会が持っている。	法人代表（社長）、管理者等に要望や想いを伝えることができる。職員の意見や思いを聞いて下さり、改善策に繋げている。職員の退職等で人員が不足する際は、職員の士気が下がらないようユニット間のサポート体制を取っている。行事や勉強会は、年度初めに職員自ら担当を決めて企画し、計画書と資料を作成しており、行事の開催や勉強会に繋げている。職員の生活環境や体調等に配慮し、職員と相談しながら勤務表が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格や研修受講などの努力や実績を評価されている。また職員の生活環境や体調にも配慮を行いながら勤務表の作成を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会の担当を職員が行い、テーマに沿った資料作成を行っている。外部研修への参加の機会も作り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人が行っている研修事業などに参加することで同業者との交流を深めている。職員へも研修の参加を促し積極的に参加させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望に対し一つひとつ丁寧に対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談等でご家族の不安や要望の聞き取りを行っている。施設見学を行い入居後の生活をイメージできるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネジャーとも連携を図りより詳しく聞き取りを行い、法人での会議を開催し、施設入居が適切かなど話し合い入居を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることを把握し職員と一緒に行うことで関係性を築くことができている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など職員も一緒にお話をする機会がありご家族も職員の名前を呼び楽しくお話をする機会が作れている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	近隣にお住まいだった入居者様は散歩の際など馴染みの方と挨拶を交わす機会がある。	馴染みの関係を大切にされており、親しくしていたデイの職員が面会に来られたり、友人の方がコーヒーマーカーとミルを持参し（毎月）、大好きなブラックコーヒーを居室で飲まれる方もおられる。自宅に外泊される方、買い物にお連れする方もおられ、「お孫さんの結婚式に参列したい」という方には事前準備（リスク対応）を入念に行い、叶えることができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆっくりと話ができるスペースを設けることができている。以前勤めていた職場の話や幼少期の事など楽しそうに話されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた入居者様の初盆の際、お手紙をお送りしている。近隣でご家族に会った際も近況を伝え合う関係性が保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と関わる事で情報収集を行いながらカンファレンスで共有している。何か行う際はご本人に訊ねご本人に決めていただくように心がけている。	入居者の方々とゆっくり過ごせる時間を作り、好きなこと、したいこと、行きたい場所などを訊ねており、家族と共有している。失語症がある方も、ご本人の「話したい思い」に寄り添い、意思疎通が難しい方は、しぐさや表情から思いを察している。カンファレンスや申し送り等で共有し、ご本人の真意を職員全員が共感できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族・担当ケアマネジャーに聞き取りを行っている。入居後もご本人からうかがい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に細かく残し、カンファレンス等で話し合い、現状の把握に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人へ何をしたいのか訊ねカンファレンスで実現するために意見を出し合い介護計画に活かしている。	ご本人の心身状況やできそうなこと、要望等をカンファレンスで共有し、「介護サマリー兼アセスメントシート」と「ケアチェック表」に記録している。感染対策を行いながら「自宅に外泊」「結婚式への参列」「買い物」等の要望を計画に盛り込み、ブラックコーヒーが好きな方も計画に盛り込み、日々提供している。体調変化に応じて見直しをしている。	①今後も「生活歴」「症状」「介助理由」「できそうなこと（有する能力）」「要望」等を介護サマリーやケアチェック表の右下に増やし、介護計画の2表（ニーズ・目標など）に繋げるとともに、日々の実践者として「ご本人」と言う表現を増やしていく予定である。 ②今後も家族等と密にケアプランの話し合いを行っていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人記録に残し全職員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の大切な日など、ご本人・ご家族の意向を尊重し、ご家族だけで過ごす時間を大切にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関や調剤薬局、駐在所などとの協働はできている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が協力機関の方が多いためスムーズな医療体制の構築ができています。	協力医療機関と24時間体制で連携している。体調変化時は適宜指示を下さる、必要時は往診して下さる。協力医療機関の理学療法士（3人）、歯科医院（2か所）、訪問看護師との連携もあり、リハビリや食事形態などのアドバイスを頂き、介護計画に盛り込んでいる。ホームの准看護師（介護職で勤務）も抜針等を担って下さる。今後も職員の医療知識を増やし、日々のケアや医師への報告に活かしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を観察し、週に一回の訪問看護の際に相談し助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを提供し、入院中も入院先医療機関やご家族と連絡を取り合い、早期退院に向けた調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、施設でできる事、現在のご本人の状態、今後考えられるをご家族へ丁寧に説明している。ご家族よりご理解いただいた上で今後のケアの方針を決定している。	ご本人が安心、安楽に過ごせるよう、家族の方々が最期まで悔いなく一緒に過ごせるよう支援している。「最期までホームで過ごしたい」と希望する方ばかりで、主治医の協力体制を心強く思っている。主治医等と24時間連携し、必要時は往診して下さる。医療行為が必要でない限り、ホームでの支援が可能である事を伝えており、緊急時の対応も医療機関や家族と話し合い、昼夜のケア等に活かしている。終末期に宿泊される家族もおられ、最期まで誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での勉強会や消防署で実施される救命救急の講習を受け定期的に初期対応の振り返りを行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜どちらも想定した訓練行っている。1Fデイサービスとも合同での訓練を実施しており災害時の協力をお願いしている。定期的にコンセント周りの清掃日を設定し防火意識の向上に努めている。	1階のデイ（別系列）と協力し、昼夜想定での避難訓練を行い、避難時間も記録している。ベルを鳴らした訓練で、職員も本番さながらの訓練を体験しており、出火元に応じてユニットのベランダまで避難誘導している。反省点も共有し、今後活かしていく予定である。飲料水・食料は3日分準備し、貯水もあり、浄化水として使用できる。社長は日本各地の施設と災害ネットワークを作り、災害対策等における支援を続けている。GH連絡協議会主催の防災訓練では、初期消火や歩けない方の避難方法を学ぶことができた。	①自然災害と感染症対策のBCP（業務継続計画）を作成しているが、避難方法が変更になっており、今後もマニュアルを変更し、職員間で共有していく予定である。 ②コロナ以前は出初式の日消防団がホームで放水して下さり、ホームの図面も渡していた。今後も運営推進会議等を活かして消防団との情報交換を行い、備蓄も含めた検討ができればと考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の訴えを否定せずご本人が納得するまでお話をお聞くようにしている。	ご本人の訴えを否定しないよう、自分がされて嫌な事はしないよう努めている。居室に入る際の声かけや入居者の方々の前で申し送りをしない等、プライバシーの配慮に努めている。入居者個々の喜怒哀楽に寄り添い、職員の言動に対しても職員同士でアドバイスしている。社長からのアドバイスも頂き、行動の背景にある心理や原因を分析し、共感に繋げている。	今後も認知症の理解を更に深めていきたいと考えている。職員のメンタルケアと日々の健康チェックを行っていくとともに、日々の職員の言動とケアの在り方を検討していく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をすることもまずご本人へ確認してから決定するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や何か行う際はご本人へ問いかけ意思を確認してから支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など選べる方はご自身で選んでいただいている。起床後の整容も持参の化粧水を使われたりされている方もいらっしゃる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を把握しメニューの中に取り入れ楽しみを持って食事ができるようにしている。提供前に「今日は～ですよ」と伝えると嬉しそうに待たれてくださる。	朝は宅食を利用し、昼食と夕食は手作りしており、彩りにも気を配っている。食材の買い出しや、包丁でジャガイモ等の皮むきをして下さる方もおられ、下膳、食器拭き、テーブル拭き等もして下さる。夏はプランターで野菜（ミニトマトやネギ、ピーマン等）を育てており、収穫も楽しまれ、2022年度は干し柿作りも楽しまれた。正月はお屠蘇、手作りおせちを楽しまれ、事業所の夏祭りではそうめん流し、スイカ割り等を行い、イオンでの外食（たこ焼き等）も楽しまれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が少なめの方は水分量が把握できるよう計測行っている。お一人お一人の食事形態を見極め召し上がりやす分量で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアがご自身でできる方はご自身で行っていただき支援が必要な方は義歯の洗浄や歯磨きを行っている。毎日洗浄剤に義歯を浸け清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便意のみある方は排便行動が見られたときにトイレへ座っていただき排泄行って頂いている。	下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。ご本人のしぐさや排泄チェック表を活用し、個別誘導を行うことで失禁が減った方や、退院時にオムツ使用の方が、トイレで排泄できるようになった方もおられる。オムツ交換の際はタオルをかけ、羞恥心への配慮もされている。職員同士でパッドの大きさを検討し、ご本人に合わせたケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握したり乳製品を毎日摂っていただいている。腹部のマッサージ行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限りお一人お一人の要望を聞き入浴できるよう配慮している。	週3回は入浴できるようにしており、「お風呂が一番楽しい」と言われる方もおられる。希望する湯温や湯船につかるかなど、できる限り好みに応じた入浴をしている。事故予防に努め、2人介助や同性介助も行われている。入浴時は職員との会話や、柚子湯やみかん湯なども楽しまれている。入浴が自立している方は視界に入らないよう遠目での見守り等を行い、手が届かないところは介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様がお好きな時間に居室やソファで休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について全職員へ申し送りし共有している。新しく処方された薬などは薬剤師・看護師へ確認し注意事項などの情報をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな物がある方へは要望をご家族へ伝えご準備いただいたり、趣味が特にない方へは近隣の散歩等で気分転換を行っていただけよう支援している。		

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している</p>	<p>感染症対策で外出支援が難しくなっていたが5類移行後、近隣への散歩やご本人が必要なものなどを購入しに外出支援を行っている。</p>	<p>ベランダで日向ぼっこされたり、車椅子で散歩されている。病院受診時に駐車場の桜の花見をしたり、近所の川に放流されている錦鯉を眺める時もあり、良い気分転換となっている。外出の機会も増えており、大型ショッピングセンターへ出かけたり、西海の丘公園へピクニック、波佐見へお花見、大塔イオンへ食事と買い物にお連れすることができた。イオンのフードコートでは「たこ焼き」「ちゃんぽん」「オムライス」等、好きなものを注文された。「自宅への外泊」「家族と外出して食事」などの要望を頂き、叶えることができた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>医療費などご家族からお預かりしたお金はホームで管理行っているが、ご希望がある方はご自身で財布を持たれお金の管理をされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>県外にいらっしゃるご家族より定期的に手紙を頂いたりするため請求書と一緒にご本人の写真と同封したりしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室やフロアの導線を考え、入居者様が移動しやすいよう配慮をしている。壁に季節の飾りをし季節感を味わっていただけるようにしている。</p>	<p>生け花の担当職員がおられ、季節の花を飾っている。毎月、季節の飾りつけをされており、入居者の方々も一緒に作品を作られている。フロアと台所が一体化しており、床は滑りにくく、柔らかい素材が使われ、転倒時の衝撃を和らげている。ソファや畳のコーナーもあり、洗濯物をたたまれている。新聞や広告を読まれる方もおられ、水槽の金魚に餌をあげて楽しめる方もおられる。適宜、換気や掃除、消毒（最低3回）を続けている。</p>	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を変えたりテーブルの向きを変えたり入居者が過ごしやすい状態を探り居心地が良い空間を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた衣装ケースや小物など持ち込んでいただいている。ご家族の写真等も飾りご家族との思い出も大切にいただけるような工夫を行っている。	両ユニットとも、リビング周囲に居室がある。ご本人の思い出の物を持ち込まれており、位牌や遺影などとともに、好きなぬいぐるみ、家族から頂いた手紙や絵、家族の写真などを飾っている方もおられる。趣味の書道の道具や本などを持ち込まれ、般若心経を写経される方もおられる。職員と一緒にホウキで掃除したり、座った状態で掃除をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂など分かりやすく明記しフロア内手摺りも物などはかけず咄嗟の時に使用できるよう環境に配慮している。		